

トラック輸送情報（平成17年2月分）

平成17年 5月26日
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
担当：高橋、荒木 内線28315
直通：03-5253-8342
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

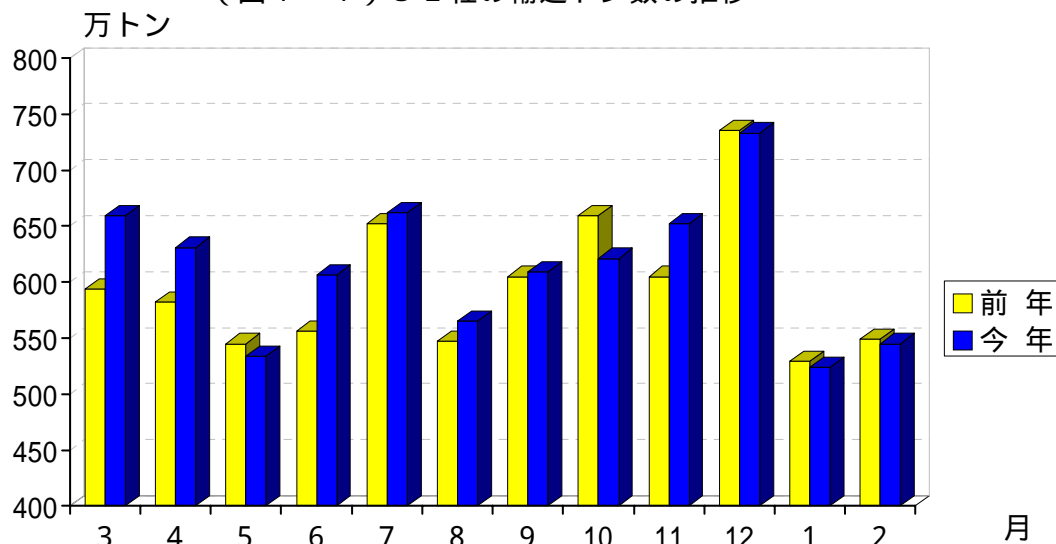
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,458,586トンで、前月と比べ、総輸送量が約22万トン増加したため、前月比104.2%（季節調整済み96.3%）、前年同月と比べ、約3万トン減少したため、前年同月比99.4%の実績であった。

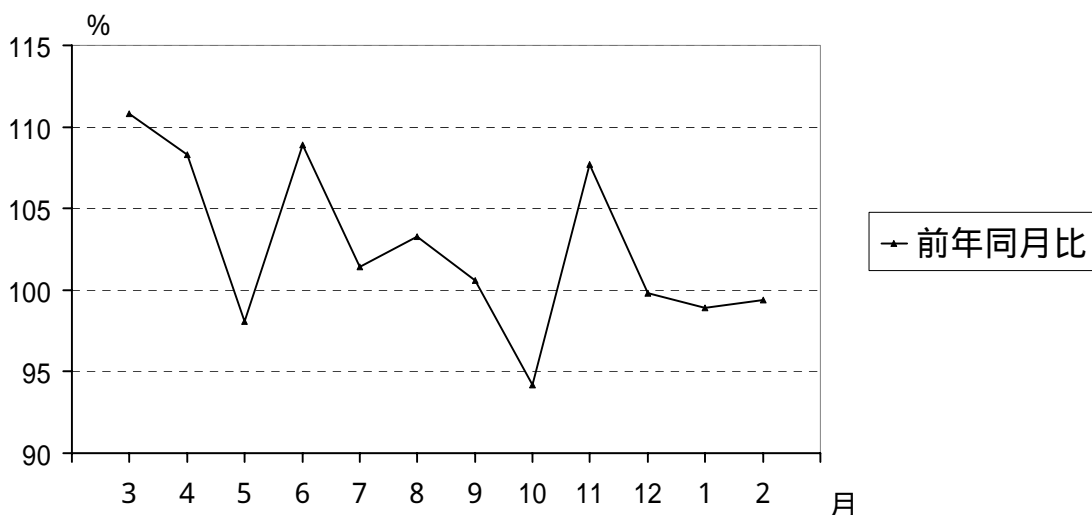
なお、平均稼働日数は、22.5日で、前月と比べ、0.9日の増加、前年同月では増減がなかった。稼働1日当たりの輸送量は、242,604トンで、前月と比べ、約200トン増加したため、前月比100.1%、前年同月と比べ、約2千トン減少したため、前年同月比99.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

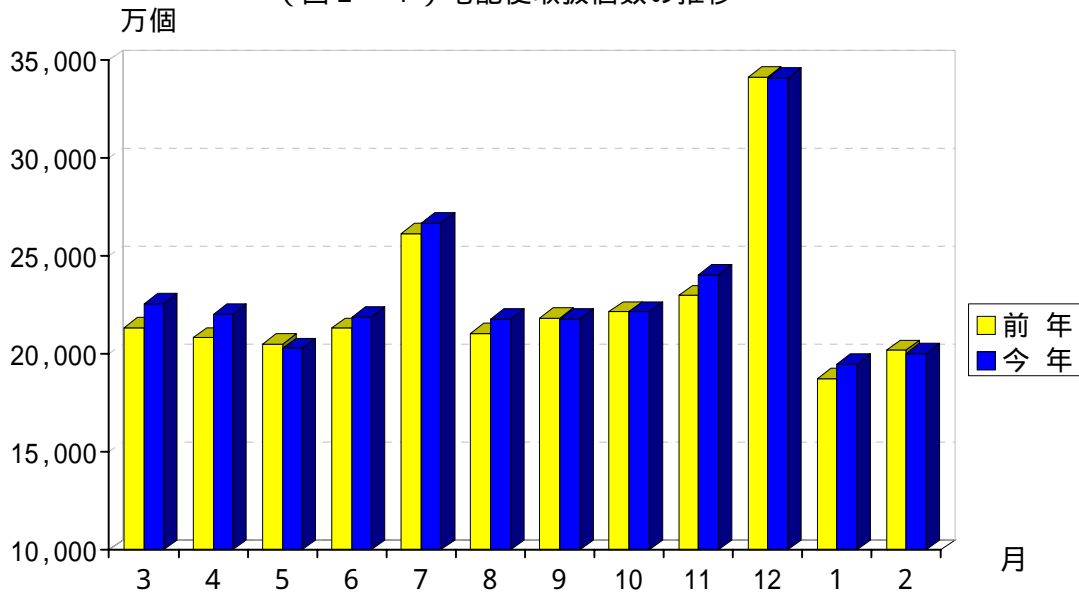


(2) 宅配便の概況

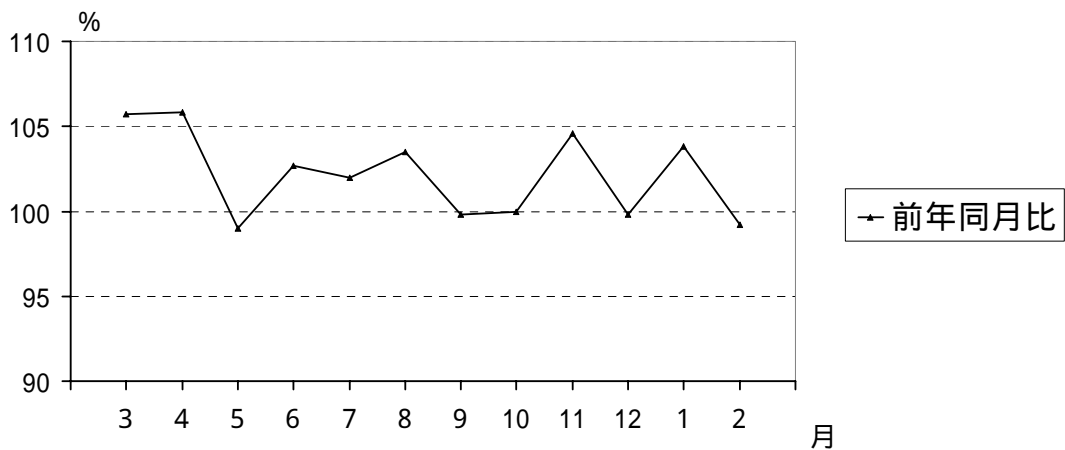
調査対象19社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、200,323千個で、前月と比べ、約543万個増加したため、前月比 102.8% (季節調整済み 95.4%)、前年同月と比べると、約 162万個減少したため、前年同月比 99.2%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2 参照)

(注) 今月より調査対象のうちの1社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が19社となった。
 なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(直近の平成17年1月で全宅配便個数の約0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比・前月比は20社のデータと比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1 参照)

前月と比べると、農水産品は生産地からの貨物減により東北、関東、中国において減少が見られたものの、年度末決算期の需要を迎えていることから増加傾向を示す品目が多く見られたため、全体的に輸送量が増加した。理由としては、工場・生産地からの貨物増、倉庫からの貨物増及び季節的需要増であった。また、食料工業品、日用品、その他(百貨店配送品、宅配貨物)においては商社、問屋からの貨物増もみられた。地域的には、関東、北陸信越、中部、近畿、中国を中心に輸送の増加が見られた。

前年同月と比べると、機械が工場からの貨物減により関東、近畿、中国において、金属製品が工場及び倉庫からの貨物減により北陸信越、四国、福岡において、また食料工業品が倉庫からの貨物減により神奈川、福岡において減少傾向がみられたものの、その他の品目では目立った動きは見られなかったことから、全体的な輸送量は0.6%と小幅な減少となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品			14	3	1	野菜	東北、関東、中国	4
	金属製品		4	21	1		その他の金属製品	北陸信越、大阪、中国	4
	機 械		5	20	2		機械部品、その他の機械	関東、神奈川、愛知、中部、中国	4
							機械部品、電気機械	北陸信越	4
	化学工業品		8	18	2		その他の化学工業品	関東、愛知	4,7,8
							合成樹脂	神奈川	4
	繊維工業品		2	25	1		繊維		4
							繊維		4
	食料工業品	1	12	13		1	飲料、加工食品	関東、大阪、東京ほか	4,5,7,8
	日用品		9	18	1		印刷物、文具、その他の日用品	関東、東京、神奈川、北陸信越、近畿、中国	4,5,7,8
そ の 他		5	19	3		百貨店配送品、宅配貨物	神奈川、関東、東京、北陸信越	2,4,5,7,8	
						百貨店配送品、宅配貨物	関東、全国	2,7,8	
前年同月に比べて	農水産品		2	13	3	野菜	東北	4	
						その他農産品、野菜	中国、福岡、九州	4	
	金属製品		2	19	5		建築用金属製品、線材製品	北陸信越、四国、福岡	4,7
	機 械		1	22	3	1	その他の機械、電気機械	近畿、中国、関東	4
	化学工業品		3	21	4		その他の化学工業品、合成樹脂	関東、福岡	1,4
							合成樹脂	神奈川、北陸信越、中国	4,7
	繊維工業品	1	1	22	4		繊維	関東、中部、近畿	4
							繊維		4
食料工業品		5	15	6	1	加工食品、飲料	東北、東京、神奈川、関東	1,4,7	
						加工食品、飲料	神奈川、福岡	7	
日用品		5	16	5	1	文具、その他の日用品	関東、全国	4	
						印刷物、その他の日用品	神奈川、関東、九州	4,9	
そ の 他		4	16	7		百貨店配送品、宅配貨物	関東、全国	2,4,5,7	
						百貨店配送品、宅配貨物	東北、中部、全国	2,7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 841社 / 調査対象事業者数 1,075社）の輸送量は、前年同月比 98.6%、前月比 103.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	98.6%	99.1%	99.2%	101.1%	94.5%	100.0%	96.6%	101.0%	98.0%	98.3%	93.8%
前月比	103.3%	107.3%	102.0%	104.0%	104.2%	102.9%	102.3%	107.9%	92.4%	102.9%	99.7%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、春に向けての道路環境の維持による排雪・道路工事の増加等により「砂利・砂・石材」「廃棄物（雪）」の輸送が増えたことから、対前月比107.3%と増加した。対前年同月比は99.1%とほぼ昨年並みであった。今後の輸送見通しは、雪解け時期を迎えることから農業関連の需要の増加や建設工事の増加に期待するも、事業者の間では横ばい傾向と見通しを立てている。</p>
東北	<p>本月の輸送は、農業稼働期を前にした「化学肥料」、公共工事等の増加による「砂利・砂・石材」、排雪作業の増加による「廃棄物（雪）」の輸送増等が見られたことから対前月比102.0%と増加した。対前年同月比は99.2%とほぼ昨年並みであった。今後の輸送見通しは、年度末輸送や引越需要があることから、次月及び以降ともに増加傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、季節的な需要により「機械」「紙・パルプ」の増加が目立ったが、全体的には正月休み等のあった前月に比べ、稼働日数が増加したため対前月比104.0%と増加した。対前年同月比は101.1%と若干上向きであった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、公共工事が増加傾向にあり、「セメント」「その他の窯業品」等の輸送が増えたことから対前月比104.2%と増加しているが、本年は例年に比べて積雪が多かったため、道路状況の悪化などにより対前年同月比は94.5%と減少した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向にあるとみられる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、季節的需要増により「機械」「その他窯業品」、工場等からの増加により「セメント」「化学薬品」、輸出入増により「その他製造工業品」等が増加した一方、季節的需要減により「水産品」「その他の農産品」が、景気により「繊維工業品」、輸出入減等により「取り合せ品」等が減少した。このため、対前月比102.9%と増加し、対前年同月比100.0%と昨年並みとなった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と見ているが、中部国際空港での取扱量の変動や愛知万博の影響により変動も予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、正月休みのあった前月に比べると、稼働日数が増えたことにより、上向きとなった。また、新学期に備え「日用品（文具、教科書）」が増加しており、対前月比102.3%と増加したが、対前年同月比96.6%と減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも増加すると予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、山陽地方において大型工事の受注や新規需要等の影響により「金属製品」「機械」の輸送量が特に増えた。一方、山陰地方では、降雪など天候による影響で、車の稼働率は少ない数値を示していたものの、季節的需要が増えたと回答があり、このため、対前月比107.9%、対前年同月比101.0%とともに増加した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向にある。</p>
四国	<p>今月の輸送は、季節的需要増により「機械」「化学肥料」「食料工業品」、建設関係により「セメント」「窯業品」などが増加したものの、工場からの出荷減により「紙・パルプ」「揮発油」「鉄鋼」が減少し、また、稼働日数が少なかったことから、全体的には対前月比92.4%、対前年同月比98.0%とともに減少した。今後の輸送見通しは、次月は若干の増加傾向、以降はほぼ横ばい傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、公共工事件数がこの時期に増加したことにより「砂利・砂・石材」「機械」等の輸送が増加し、「食料工業品」「日用品」は季節的な需要や焼酎の需要増が見られたことから対前月比102.9%となったが、対前年同月比は98.3%と減少した。今後の輸送見通しは、来月はやや増加し、それ以降はほぼ横ばい傾向のようである。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「金属製品」は建築用エレベーター資材、「取り合せ品」は県内向け雑貨類、「その他の農産品」は県外向け彼岸用切り花（菊）及び「廃棄物」は県内スポット輸送などの増加が見られたものの、「取り合せ品」の引越貨物の減少があったことから、対前月比99.7%とほぼ横ばいとなった。対前年同月比は93.8%と減少した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
2. 野菜・果物	増	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	減	1	1	1	1	1	0	0	4	5	0	14
3. その他の農産品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	6	0	0	0	0	0	0	1	2	0	9
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
	減	5	2	0	0	1	0	0	1	4	3	16
6. 木材	増	1	2	1	1	0	0	1	0	1	0	7
	減	5	4	0	1	0	0	2	0	1	0	13
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
10. 砂利・砂・石材	増	6	0	0	2	0	1	0	0	1	0	10
	減	12	3	0	1	0	0	2	0	1	0	19
11. 工業用非金属鉱物	増	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4
12. 鉄鋼	増	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	4
	減	2	1	0	1	0	0	2	0	3	0	9
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
14. 金属製品	増	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	1	1	1	1	0	2	0	1	1	9
15. 機械	増	0	0	3	0	2	3	2	0	2	0	12
	減	0	3	3	3	1	2	1	2	1	0	16
16. セメント	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	3	4	0	1	1	0	7	2	6	0	24
17. その他の窯業品	増	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	5	3	1	3	2	1	2	0	0	0	17

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
19. その他の石油製品	増	1	1	3	1	0	0	2	0	1	0	9
	減	1	3	0	2	0	1	1	0	0	0	8
20. コークス・その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	減	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	4
22. 化学肥料	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
23. その他の化学工業品	増	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3
24. 紙・パルプ	増	2	0	2	0	1	0	0	2	0	0	7
	減	1	2	0	0	0	0	3	0	1	0	7
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
26. 食料工業品	増	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	6
	減	3	9	0	4	0	4	5	4	7	2	38
27. 日用品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	減	6	2	1	0	2	4	2	2	5	0	24
28. その他の製造工業品	増	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	4
	減	0	0	1	0	1	0	2	0	2	0	6
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	3	1	2	0	0	0	0	1	8	0	15
32. 廃棄物	増	11	2	0	0	0	0	0	0	2	0	15
	減	2	1	1	1	0	0	0	0	4	0	9
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
34. 取り合せ品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	減	0	6	2	1	0	1	1	4	4	0	19
35. その他	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3